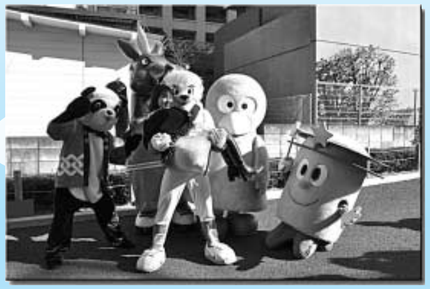
みんなの広場

みんなのギャラリー



▲所沢市を中心に活躍するキャラクターたちがパレードを行いました。「所沢キャラ祭」
1月25日㈰／野老澤町造商店
（撮影／市民カメラマン・木村清貴）

▲「第26回所沢市吹奏楽祭」では、小学生から一般まで市内の吹奏楽団28団体が日ごろの練習の成果を披露しました。
2月8日㈰／ミューズ・大ホール
（撮影／市民カメラマン・中村　仁）

▲市内の幼稚園から20チームが参加した「第12回所沢フレンドリーカップサッカー大会」。元気一杯にボールを追いかける子どもたちへ、熱い声援が飛び交います。
2月7日㈯／所沢航空記念公園運動場
（撮影／市民カメラマン・西田憲正）

▶「第5回所沢オープンバドミントン大会」県内だけでなく東京都や山梨県などからも225ペアが参加し、白熱した試合が展開されました。
2月1日㈰／市民体育館
（撮影／市民カメラマン・塩野入好文）

みんなで楽しく エコ活動！

環境レポーター "エコちゃん" が行く

市立保育園での取り組み　緑のカーテンで省エネ活動

ゴーヤや朝顔などのつる性植物を育てて緑のカーテンを作りました。

▲吾妻保育園

◆どんな効果があったの？

- 日ざしがさえぎられ、部屋を通る風が涼しく感じられました。
- 緑のカーテンの内側と外側では、2～4度の温度差がありました。
- 鮮やかな緑が、気分を爽快にしてくれました。

◆ゴーヤの実はどうしたの？

▲並木保育園

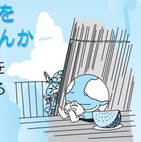
保育園の給食で食べたり、持って帰っておうちの人と料理したりしておいしく食べました。

◆評判はいかがでしたか？

保護者や地域の方々にも関心を持っていただき、温暖化防止の啓発になりました。来年は自宅で取り組みたいとの意見もありました。

ゴーヤ、にがったけど、おいしかったよ！

今年の夏、緑のカーテンを作ってみませんか



植物は、毎日土から水を吸い上げて葉っぱから水分を蒸発させています。このため日ざしをやわらげてくれるだけでなく、室温の上昇もおさえてくれます。皆さん、身近な省エネ対策に緑のカーテンを育ててみませんか。
問い合わせ　環境総務課（☎2998-9133・FAX2998-9394）

皆さんからの写真や投稿をお待ちしています！

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント（約60字）を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『思い出の味』▶文章は添削あり▶締め切りは3月8日㈰必着▶掲載者には記念品を進呈
◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール（アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp）でご応募ください。

はつらつ野老っ子

『一手入魂』所沢のプロ棋士

及川　拓馬さん（小手指元町在住）

2007年10月、及川拓馬さんは弱冠20歳にして将棋のプロ棋士（市内在住者では1人）になりました。埼玉県松伏町で生まれ、小手指小学校・小手指中学校を卒業した及川さんは、所沢のみならず埼玉を代表する新進気鋭のプロ棋士です。

初めて駒に触ったのは5歳の時、指南役はお父さんでした。小学校3年生ですでにアマ初段、小学校5年生になるとプロの登竜門である奨励会に入会し、プロ棋士を目指しました。この奨励会時代（おもに中学・高校）は、及川さんの今までの将棋人生の中で厳しい時代でした。「中学時代は長いスランプに苦しめられ、一時はプロをあきらめようと思ったこともありました。高校を卒業してからは将棋にリズムが生まれ、一番打ち込めた時期でした」と当時を振り返ります。

今までで最も印象に残っている対局は、プロ棋士となることを決めた昇段の時の一局だそうです。

ここまで聞くと、さぞ将棋漬けの学生時代かと想像しますが、中学校の部活は卓球部、しかも埼玉県大会ベスト8！高校では文化祭でギターライブをしていたといいますから驚きです。

スポーツにも趣味にも才能を開花させる及川さん、何事にも一生懸命なのが及川流です。

及川さんの将棋は攻め将棋、駒をすべて使って軽くさばくのを得意とし、盤上をまるでキャンバスに絵を描くように将棋の局面をつくります。「最後の最後まで勝負がもつれ込む終盤のスリルが将棋の醍醐味です」と勝負師・及川四段は語ります。

今後の目標を聞くと「A級（名人に次ぐ将棋界のトップ10人）に入り、所沢出身の羽生善治名人に挑みたい」と、柔和な顔が真剣になりました。

若き及川棋士が名人たちに王手をかける日が、今から楽しみです。

◎野老澤町造商店では『及川拓馬四段との十面指し』を3月28日㈯に行います。将棋愛好家の皆さん、及川四段に挑戦してみませんか。
問い合わせ　同商店（☎・FAX2928-1453）

▲真剣な表情での一手

歴史再発見 ところざわの文化財 ㉜

社殿に描かれた彩色絵　～三上文筌筆 坂稲荷神社社殿装飾絵～

御幸町にある坂稲荷神社では、毎年3月のお彼岸前後の日曜日に初午のお祭りが行われます。参道入口では重松流の祭囃子が演奏され、社殿を覆っている土蔵造りの覆い屋の扉が開けられ、榊や餅、酒・果物・野菜などが供えられます。

この覆い屋の中の社殿には各所に彩色絵が描かれています。正面の板唐戸には、向かい合った白狐が一対、その下の羽目板には牡丹と唐獅子、左右の板壁には黒い鯉の滝登り、後部の脇障子には牡丹2輪が描かれています。長い間風雨にさらされていたためか、彩色は全体的に色あせています。しかしながら、羽目板の「唐獅子牡丹図」は勢いよく描かれ、また右端には「天保八丁酉秋日　文筌寫」の文字が墨書きされています。作者の署名と製作年代がわかる作品として貴重で、市の指定文化財となっています。

作者の三上文筌は、江戸時代後期の文政元年（1818）に所沢村下宿（現御幸町）に生まれ、所沢や江戸を中心に活動した絵師です。市内には、金乗院（上山口）に富士巻狩図大絵馬が、多聞院（中富）に虎図絵馬などが残されています。また、信州松代藩の医師高川家の養子に入り、御用絵師としても活躍しました。特にペリー提督来航の時には黒船絵巻などを描き、世の評判を得ました。

ちなみに今年の坂稲荷神社の初午祭は、3月15日㈰の予定です。
問い合わせ　文化財保護課（☎2998-9253・FAX2998-9128）

誰でもエッセイ

◆テーマ「記念日」

子どもからおとなへ

南住吉・宮下　広子

晴れた日の夕暮れの空、茜色、緋色、紅、群青色、紫紺…移りゆく情景の美しさに見とれてしまいます。そのたびにいつも思い出すのは、中学生のころ部活動が終わった後、グラウンドに寝転がって友と眺めた夕焼けです。今でも鮮明に覚えています。

もうすぐ中学校の卒業式。見たこと、聞いたこと、感じたことが、これからの人生の基準になっていくような柔らかい感性を、おとなになっても忘れずにいてほしい。卒業していく子どもたちの未来が希望に満ちていますように。

別れ、そして旅立ち。中学校の卒業式は、子どもからおとなへと少しずつ変わっていく〝記念日〟のような気がします。

二重の記念日

くすのき台・関　さかえ

父と母の結婚記念日が、私の誕生日である。兄が生まれた後、両親は女の子がとても欲しかったそうである。母のお腹が大きくなったころ、だんだん結婚記念日が近づいてきて、その日に女の子をと切に願って見事そのとおりになった。だからずっと私の誕生日には二重のお祝いをした。

父と母は埼玉県と山梨県の出身で、どのような縁があったのか。とにかく仲のいい夫婦で、私はそれが本当に嬉しかった。

あるとき、引き出しの中に「菊恵へ」と文字入りの万年筆を見つけた。父が若いころ母に贈ったものだ。それを見て父と母の恋愛を想像した。

金婚式の結婚記念日には、父はヘソクリで母に小さなダイヤの指輪をプレゼントした。そのときの母の笑顔が忘れられない。

記念樹

和ヶ原・山ノ井　義治

子どもの誕生、入学、結婚等ビッグな記念日には記念樹を植えてきた。猫の額ほどの庭だが、梅、白樺、伽羅等をそのつど植えた。梅の花は一番早く春を知らせてくれ、また実が採れる楽しみもある。小学校入学祝いの白樺は、もう子どもの背丈の3倍ほどになった。

記念樹の成長は記念日からの歳月を教えてくれる。故郷の庭には、父母が植えてくれた桜や柿等の記念樹が大木になっている。これからも記念すべき機会には樹を植えていきたい。